

14 古文2 古文の読解

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔平成十八年度 宮城県公立高校入試問題〕

つれづれなる折をり、昔の人の文見出ふみいでたるは、ただ①その折の心地して、いみじくうれしくこそおぼゆれ。まして亡き人などの書きたるものなど見るは、いみじくあはれに、年月の多く積もりたるも、ただ今筆うち濡ぬらして書きたるやうなるこそ、返す返すめでたけれ。

何事も、②たださし向かひたるほどの情なさけばかりにてこそはべるに、これは、ただ昔ながらつゆ変わることなきも、いとめでたきことなり。

(「無名草子むみょうそうし」による)

※つゆ：少しも。

① 右の文章中に「①その折」とありますが、その内容を説明したものと
として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア その手紙をもらったとき。
- イ その手紙をみつけたとき。
- ウ その手紙をとどけたとき。
- エ その手紙をなくしたとき。

② 右の文章中に「②たださし向かひたるほどの情なさけばかりにてこそはべる」とありますが、これと対称的なこととして表現されている部分を、
文章中から十五字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

③ 右の文章中に述べられている筆者の考えとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直接話すよりも自分の気持ちを素直に表現することができ、手紙を交わした相手とは変わらない友情で結ばれるのが手紙のよさである。

イ 時間や空間を越えて人々と交流でき、会ったことのない昔の人や異国の人でも、読めばすぐに心を通わせられるのが手紙のよさである。

ウ いくら時間が経過してもつづられた言葉は変わらないで残り、読めばすぐに当時のことがあざやかによみがえるのが手紙のよさである。

エ 自分の気持ちが落ち着かないときに書いてしまった手紙でも、時間をおいて文面を何度も書き直すことができるのが手紙のよさである。

